

次期一般廃棄物最終処分場について 説明会 質疑応答内容

日 時:令和8年3月22日(日) 午後2時00分から午後2時50分まで

場 所:南清掃工場見学者室

【質疑応答】

○参加者 ●清掃施設課

○隣接のA&A事業の用地には、様々な物が埋設されていたと記憶しているが、当該地は全ての土地を調べた上での選定か。

●令和6年度に埋設物と堆積物の調査委託を実施した。航空写真を昭和20年代から5年スパンで確認し、造成の跡などが確認できた土地に対し地権者合意のもと調査を行った。調査はレーダー調査等を実施し埋設物の可能性は低いという結果が出ている。全ての土地を網羅した調査ではないが、直ちに候補地から除外するという結果ではないと判断し、最も有力な候補地として選定している。

○畑を所有しているが、多くの不動産会社から「購入したい。皆さん同意している。」などの話がある。全て断っているが、農地で利用に制限がある土地だと認識しているので、計画のとおりに進めて欲しいと思っている。現段階で、計画から遅れそうな懸念事項はあるか。

●令和19年までに整備しなくてはならないという危機感があるため、少しでも早く整備したいと考えており、スケジュールのとおり進めたいと考えている。

○今の最終処分場は窪地に整備したが、候補地8を整備する場合、どれだけ掘るのか。

●現時点では、10～15m程掘ることを予定している。

○最終処分場に埋立てられた灰などは土になるのか。

●一部、有機性なものは分解して土に戻ることはある。基本的には土にはならないが雨により浄化され、灰などに触れた雨水は、排水処理施設で処理を行い公共下水道へ放流している。

○収集されたごみは全て燃やしているのか。

●南清掃工場の場合、1日約300台の収集車のごみピットにごみを投入するが、即日焼却ではなく、攪拌しできるだけ均質にしてから焼却している。南清掃工場は他の工場より高温であり、熔融スラグという道路の材料に使用できるものを生成している。

○収集したごみは全て調査しているのか。

●収集したごみ袋の調査は、事業系ごみについては比較的高い頻度で行っているが、家庭系ごみについては年に1回程度ごみの組成を調べるために、一部を抽出して調査を行っている。資源化できるものが約30%含まれている結果であった。さらなる分別をお願いしたい。

以 上